

## 「SDGs」の重要性

市川中学校 二年 若林 駿

私には今、興味をもってしていることがある。それは「SDGs」と「地産地消」だ。私は最近この二つの事柄がより密接しているのではないかと思っている。

私は、小さい頃から現在まで祖父と一緒に農作物を育てている。祖父の栽培する農作物を収穫することは、私にとってBBQと夏の甲子園に並ぶ、夏の三大イベントの一つである。それには訳があり、最近値上がりしているジャガイモなどの野菜をふんだんに収穫することができないからだ。そんな野菜で作る母と祖母のカレーは、言葉で言い表すことができないほどおいしい。

私は主にジャガイモの水やりや収穫をしている。収穫のとき三〇度を越す暑さの中でもしつとり・ひんやりした土を掘るのは心地よい。それに加えて、掘り返した土の独特の匂いや、掘っているとき折ひよいと顔を出すミミズやダンゴムシを見ると、夏が来たのだと五感で感じることができる。

だがある日、私はふと「あれ？ これはもしかしてSDGsの活動のどれかではないか」と思った。これまで私は、地産地消のようなことをしているとは思っていたが、SDGsと関係しているとは全く思っていなく、知らなかったため、本当に関係していると知ったときは愕然

とした。そこからのめり込むように調べていくと、SDGsの十七の目標の中で「②飢餓をゼロに」と「⑤陸の豊かさを守ろう」に関係していることが分かってきた。これまで何とも思っていなかったこの活動が間接的にSDGsに関係しているとは知ったときは驚きが止まらなかった。そして誇らしく感じた。こんな些細な活動でも、SDGsという大きな活動に少しでも影響を与え、役立っていると知ってから「他にどんな活動がSDGsにつながるのだろう。」と思うようになっていった。そこからは普段することのなかったことをした。例えば、道端に落ちていたゴミを拾うようにした。他には、物の消毒にも気を遣うようになった。また「人権」を心に留めるようになり、気が合わない人にも他の人と同じように接するよう心がけるようになった。これらの差別や不衛生さにも以前に増して敏感になった。そうしているうちに自分ができるなかったことをした達成感で胸がいっぱいになった。私は将来、医療に関する仕事に就きたいと考えている。前述したことはいずれ役に立つと考えている。

今は些細なことしかしていないが、SDGs自体は二〇三〇年までに十七の全ての目標を「世界」で達成しなければならぬ。現時点で日本が達成している目標は「④質の高い教育をみんなに」と「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」と「⑩平和と公正を全ての人に」の三つであると言われている。畑で作物を栽培するこ

とは、小規模ではあるが、食料問題を解決することに繋がっていくのではないかと思っ

たい。だから私は、次世代の持続可能な社会を構築する担い手の一人としてどんな仕事に就いても、農作物の生産に少しでも関わり続けたい。SDGsの活動を他人に任せるとはなく、自分の力でできることをして、この社会に貢献したい。

「SDGs」と聞くと、別世界で行われていることのように思っていた。しかし、畑で作物をつくり、収穫して食べる。こういうことが、本当のSDGsであり、全ての人が取り組めることなのだ。

一人でも多くの人が、そのことに気づき、小さな活動を始め、それを続けた先に「持続可能な世界」があるのではないだろうか。温暖化がもたらす猛暑の中でそんなことに気づいた夏だった。